

2024年度の学会賞審査結果について、以下のとおりご報告いたします。

2024年度学会賞受賞者

	山村記念賞	青洲賞	松木賞	若手奨励賞（臨床研究）	若手奨励賞（基礎研究）	社会賞
業績名	麻酔薬の治療薬・診断薬としての応用可能性	周術期の止血や血栓防止法の模索	受賞者なし	The perioperative frontal relative ratio of the alpha power of electroencephalography for predicting postoperative delirium after highly invasive surgery	Role of the protein kinase A signaling pathway and identification of mediators in the cardioprotective effects of enteral lactoferrin for ischemia-reperfusion injury in an isolated rat heart model	受賞者なし
受賞者	宮崎 智之	市川 順子		木下 裕貴	大宮 啓輔	
所属	横浜市立大学	東京女子医科大学附属足立医療センター		弘前大学医学部附属病院	山梨大学医学部	
講評	<p>宮崎氏が最高点を獲得するとともに、1位と評価した者は審査員10名中6名であった。評価点数が僅差であった応募者と比較して、宮崎氏が1位であると評価した人数が圧倒的多数であった。</p> <p>次に、宮崎氏の業績内容について「麻酔薬に関する新たな作用を見出した研究」、「業績は圧倒的で、AMPA受容体に関する世界で初めての知見であり、革新的な研究が遂行される土台となる研究である」、「ハイインパクトファクター学術誌に掲載された格段に優れた研究」、「麻酔薬における新たな研究領域を開拓」など極めて高い評価を占め、本学会の最高の賞に値する業績であるとし、山村賞を授与することが満場一致で承認された。</p>	<p>市川氏が最高点を獲得するとともに、1位評価者は10名中7名であった。点数、順位ともに圧倒的に高評価を得た。</p> <p>次に、市川氏の業績内容について「提出業績5編が全て英文論文である」、「人工心肺に関連した出血に関連した一連の研究で、研究内容は一貫しており、地道な努力により数多くの業績」、「ヘパリンリバウンド現象など臨床上の疑問から研究を進展させ、周術期の血液凝固線溶機能に関して情報発信を続けている」など極めて高い評価であった。以上により、本学会において最も優秀な臨床研究業績に値するとし、青洲賞を授与することが満場一致で承認された。</p>		<p>木下氏が最高点を獲得するとともに、1位評価者は10名中8名であった。また、木下氏の業績が掲載される雑誌、Anesthesia and Analgesiaはインパクトファクターが6.627と高いことが確認された。その他、業績において「波形の詳細から術後せん妄の発症を予測できるかもしれない、という内容はインパクトがある」、「術後譫妄の原因解明と防止の観点から、今後の発展性が期待される」などの評価がなされ、最も優秀な研究論文（臨床研究）を発表したとして木下氏に若手奨励賞（臨床研究）を授与することが満場一致で承認された。</p>	<p>点数評価は僅差であったが大宮氏の方が高く、1位評価者は10名中6名であった。</p> <p>どちらの研究も臨床的に重要である研究であり、掲載雑誌のインパクトファクターはほぼ同程度であったが、大宮氏は申請論文において筆頭著者かつ責任著者であり、申請論文で責任著者になることは論文の貢献度が高いとし、より高評価を得た。以上により、最も優秀な研究論文（基礎研究）を発表したとして大宮氏に若手奨励賞（基礎研究）を授与することが満場一致で承認された。</p>	

※受賞予定者は（1）2023年度の定時社員総会開催時の授賞式に出席（代理人でも可）と（2）第71回年次学術集会にて授賞記念講演を以て受賞とみなします。
詳細は受賞予定者へ個別にご連絡いたします。